

# 田辺中学校・高等学校

実施日時	令和2年6月17日(水)、11月5日(木)、12月9日(水)、 12月12日(土)、令和3年2月3日(水)
参加者	生徒359名(高校1年生279名、中学1年生80名)、教職員10名 計287名 (12/12は生徒77名、教職員8名)
実施内容	列車からの避難訓練学習、津波避難学習・避難訓練、地震と津波について講演、列車避難訓練、列車避難訓練事後指導

## ねらい

- 1 津波による被害を想定し、これについての学習と避難を学習することによって防災意識を高める。
- 2 列車乗車時に地震・津波が起こったことを想定し、避難方法や実際の避難訓練を行うことによって防災意識を高める。

## 主なプログラム

- 1 JR制作による列車からの避難についての動画による事前学習
- 2 本校防災担当による津波についての学習と避難訓練
- 3 和歌山気象台長石井嘉司氏による地震・津波についての講演
- 4 JRによる列車避難訓練
- 5 列車避難訓練の事後学習

## 概要

- 1 生徒全体でJRの車両からの避難をJR制作の動画で学習を行い、各クラスから10名程度の代表が実際に列車運行中の地震を想定した避難訓練を行う。後日、避難訓練の映像や写真、参加者の感想等を用い、内容を生徒全体で共有する。
- 2 本校防災担当や和歌山地方気象台長の講演を通じて、地震や津波のメカニズムやその被害について学習する。

## 参加者感想文

- ・電車という常に動くものから、どう逃げるかを学べて、とても良い経験になりました。
- ・今回は揺れがなく、気候、時間ともに恵まれているので、これより劣悪な環境の中で避難するとなると率先避難者として動きたいが、不安である。
- ・電車から線路へ降りるのが初めてで、電車から線路までの高さが思っていたより高かった。
- ・海が近い中で、どれだけ早く避難できるかが鍵だと感じた。
- ・子供やお年寄りの方は電車から飛び降りて、走って避難するのは大変なので周りの人がしっかりサポートするのが大切だと思った。





## 成果と課題

### 【成果】

生徒は講演や学習を通じて、地震・津波の知識とその避難方法を学んだ。また、実際に列車避難を体験することにより、こういった困難や想定外の出来事が起こるかを体験することができた。列車避難を体験した人数は全体の4分の1ほどであるが、この経験を全生徒で共有し避難のあり方に対して考えを深めることができた。

### 【課題】

今回は列車避難をメインに防災のあり方を考えた。コロナウィルスの感染拡大防止のため、実際の避難訓練は人数を限って行ったが、その体験をより広範囲に共有し、受け継ぐ必要がある。また、防災に関しては継続的に学習を行い、率先避難者として活動できるよう、常に高い意識を持って生活できるようこれからも活動をしていく必要がある。